

令和元年度 第2回伊那北高等学校評議員懇談会報告

学校評議員運営委員会

- | | | | |
|-----|-----|--|---------------|
| I | 日時 | 令和2年2月1日(土) | 16:10~17:25 |
| II | 会場 | 高志館1階研修室 | |
| III | 出席者 | 〔評議員〕 藤田 浩史(義務教育関係) 大神田 淳子(信州大学)
傳田 智子(上伊那広域連合) 丸田 安尉(自治会関係)
上野 美穂(企業関係者) 大野田 文吉(同窓会)
〔職員〕 学校長 事務長 河合(教務) 大石(進路)
手塚(生徒指導) 小野(特別支援) 北原(P T A)
武田(職場代表) | |
| IV | 次第 | (司会:河合) | |
| | 1 | 学校長挨拶 | |
| | 2 | 本年度の本校活動中間報告 | |
| | | (1) 学習、進路指導(大石) | (2) 生徒指導(手塚) |
| | | (3) 特別支援教育(小野) | (4) P T A(北原) |
| | | (5) 学校評価(大石) | (6) その他(河合) |
| | 3 | 意見交換 | |

意見交換会で出された意見等のまとめ

1 生徒指導について

今学校(中学校、高校問わず)には、発達のバランスを欠いていたり特性を有したりしている子供たちが増えている。一人ひとりの能力を伸ばしてやれる環境が今後必要になってくる。また様々な問題を抱える生徒、家庭が増えているため、中高の連携を一層強化して行ってほしい。

2 課題研究発表会(2年理数科)、総合的な探究の時間学習成果発表会(1年普通科)について

・生徒の熱心な姿に感心した。高校生たちはまだ science の‘いろは’を始めたばかりの段階であるため今後有効な助言をして行ってほしい。大学生との交流もよいのではないか。(2年理数科)

・「学び方を学ぶ」ことを通して、汎用性の高い力が養われている点が素晴らしい。地域の企業や機関と繋がりながら、小→中→高→大と継続的・具体的につながっていくものを作っていくことが大切(課題)である。(2年理数科)

・SDGs への理解はまだ十分ではないが、これから社会に出ていく高校生にとっては大切な課題であるので、取組の強化をお願いしたい。(1年普通科、2年理数科)

・先を見据えて学年としてしっかり取り組んでいると感じた。(1年普通科)

3 学習活動・内容について

・伊那北高校のような進学校においても、将来の職業観を養うために、労働基準法や社会保障に関することを学ぶことも重要であると考えます。

・自分の進路や職業に「生きがい、喜び」を見出していけるよう、人として本当に大切な部分を磨いていくことができるようなキャリア教育が必要とされている。小中高で継続的に何を教え伝えていくかが課題である。

・地域の多くの人たちにかかわってもらえるような、「地域で子どもを育てる」という雰囲気広がっていくとよい。